

# ヒトパピローマウイルスによる疾患について

Human Papilloma Virus  
ヒトパピローマウイルス

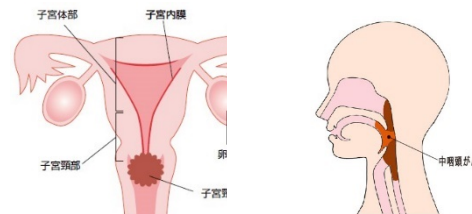
①原因となるウイルス：ヒトパピローマウイルス (human papillomavirus : HPV) は、パピローマウイルス科に属する環状構造の二本鎖 DNA ウイルスです。



②感染経路：主に性感染症、性的接触や出産時の母子感染、接触感染で皮膚や粘膜から感染します。

③疾患について：HPV 感染症は、子宮頸がん、肛門がん、膣がん、陰茎がん、中咽頭がんなどのがんや、尖圭コンジローマなどの原因となります。

HPV は 100 種類以上の型があり、がんとの関連の程度によって「高リスク」と「低リスク」に分けられます。**がんの原因となる HPV は「高リスク型 HPV」と分類されます。「高リスク」に分類されるのは 16,18,31,33,35,39,45,51,52,56,58,59,68,69,73 及び 82 型で、前がん病変を経てその一部ががんになります。特に HPV16 型と 18 型の 2 種類が子宮頸がんの原因の 50~70% を占めており、頻度の高い 7 つの型 (16,18,31,33,45,52,58 型) で 90% を占めています。そのほか、HPV6 型や 11 型は「低リスク」に分類され、尖圭コンジローマなどの原因となります。**



HPV は性交渉の経験がある女性の 50~80% の女性が生涯で一度は感染するとされています。HPV に感染しても 90% 以上の感染者では、感染後数年以内にウイルスが自然に排除されますが、排除されずに長時間持続感染したまましていると、がんや尖圭コンジローマが生じることがあります。

## 子宮頸がんとは？

子宮頸部 (子宮入り口) にできる癌で、20~30 歳代の女性に増加しており、日本では年間約 11,000 人の女性が子宮頸がんを発症し、約 2,800 人が死亡しています。最近では、若い年齢層 (20~39 歳) の子宮頸がんの罹患数が増えており、40 歳未満の女性では 2 番目に多いがんとなっています。

主な原因は発がん性ヒトパピローマウイルス (HPV) による感染と言われています。HPV の持続感染により、まず子宮頸部に前がん病変 (異形成) が生じ、その後、数年から数十年を経て子宮頸がんに進展します。

子宮頸がんは、初期段階のほとんどに自覚症状がありません。

## 発がん性ヒトパピローマウイルス (HPV) とは？

発がん性 HPV は皮膚や粘膜に常在するウイルスで、多くの女性が一生に一度は感染すると言われています。感染しても多くは自然に治まりますが、感染した状態が長く続く (数年~数十年) と子宮頸がんになることがあります。発がん性 HPV は 15 種類ほどあり、なかでも HPV16 型・18 型は子宮頸がんから多く見つかります (子宮頸がんにかかった日本人女性の約 65% を占めます)。

## 尖圭コンジローマとは？

男女性器にできるイボ状の良性腫瘍で、治療しても繰り返しやすいため、しばしば精神的な苦痛を伴います。通常自覚症状はなく、陰部のイボ、不快感や痛み、出血を生じることがあります。2016 年には約 5,700 人の尖圭コンジローマ患者が報告されていますが、実際には報告されていない患者を含めると罹患数はもっと多いと推察されています。

(2020 年 11 月 10 日作成)